歌碑　文化　寺社　石橋　板碑　神体　伝統　歴史

南阿蘇っていいな

点在する文化財を訪ねて（随時掲載）

二体でご利益2倍かも

皆さん、明けましておめでとうございます。

今年が皆さんにとって、輝く年になりますよう祈っています。

さて昨年のことになりますが、仏像を見ることが好きな私は奈良旅行に続いて、今度は福岡市博物館で行われていた「九州仏（きゅうしゅうぶつ）」という特別展を見に行ってきました。

これは、九州が日本では大陸との接点となっており、ほかには見られない独自の仏教文化を育んだ地域として、奈良や京都の古仏とは違った魅力を感じてもらおうと企画されたもので、九州各県からなんと100体もの仏像が勢ぞろいしていました。

展示されている仏像はどれもすばらしく、目の前に立って拝顔していればため息が出そうなものばかりです。

それもそのはずで、出展されている100体の仏像の中には30点もの重要文化財が含まれており、最近の調査で発見された新発見の仏像や、普段は拝観できない秘仏や所蔵寺外では初公開の仏像などが整然と並んでいました。

めずらしいツーショットです。
（くまモンの高さは約50センチです）

ちなみに、熊本県からは球磨郡湯前町にあります城泉寺から国指定の重要文化財阿弥陀如来と両脇侍が出展されていました。

以前勉強しましたように本尊が阿弥陀如来ですから脇侍には勢至菩薩と観音菩薩になるわけですが、会場内ではちゃんとしかも威風堂々とお立ちになっていらっしゃいましたよ。

こうして大満足の中で会場を出たところ、博物館内の常設展示場が目にとまり「♪日の本一のこの槍を」の槍が展示されているということで吸い込まれるように入ってみました。

展示場は各部屋からなっており、順番にまた順路のとおり観て回ってちょうど槍のところに来たところ、正面から歳のころ80歳が近いと思われる5人の女性集団とバッタリ。

その集団は静かな館内におかまいなく、大きな声でペチャペチャと喋りながら、マナーなどどこ吹く風で闊歩（かっぽ）する姿はまさにオバタリアンで、各部屋入口にある「順路」と矢印「⇒」を完全に無視し、まさに逆走状態。

槍の説明解釈も中途半端でその場を切りあげ、次の部屋へと進み同じように観て回っていると、後を追ってきた先ほどの集団とまたもや遭遇。

今度こそは「おばさんたちは逆回りをしていますよ。入口の案内板は見えませんでしたか。さらに声も大きすぎますから気を付けましょうね」と言いたかったのですが、お年寄り5人のパワーに圧倒されてとうとう言えなかったどころか、逆に「この小心者めが！」と自分に喝を入れてしまいました。

話を本題に戻し、仏像探訪に行きましょう。

たわわに実っていた柿の実はすっかり落ちてしまい、辺りはすでに冬支度が終わったような寒い日、河陰地区にあります観音堂を訪ねてみました。

入口のサッシ戸をソーッとあけてみた途端、「わっきれい」と思わず声を発したほど拝殿は掃除が行き届いているうえ、これまたきれいな花がずらりと祭壇に供えてあります。

地域の皆さんによるご奉仕活動か、個人的に献身的な活動をされているのかわかりませんが、いずれにせよここの観音堂が地域に深く根を張り、地域とともに息づいていることが容易にうかがえます。

さらにご本尊を見上げた途端、さらに驚かされました。

なんとそこには、同じような十一面観音様が2体そろってお座りになっていらっしゃいました。

一つのお堂の中に、こんなに同じ大きさで同じような彫り方のご本尊が2体揃って安置されているのは珍しいことで、永い時間が流れる中にあってはお寺の統合や廃寺によって本尊だけが移されたものやら、その要因を知りたくても今となっては歴史の闇の中に消えています。

南阿蘇っていいな。何かあったにせよ、こうしてみんなで守り続けてくれますからね。

ところで、本尊が2体あるっていうことは、ご利益も2倍でしょうかね。

〔記事と写真〕
県文化財保護指導委員
笠野　次雄